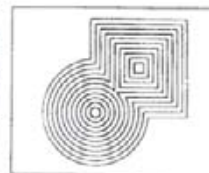


モノグラフ・高校生'95

vol. 43 高校生の性とデート



東京学芸大学教授 深谷和子

埼玉県立小川高等学校教諭 三枝恵子

東京都立松が谷高等学校教諭 宮沢良美

●目次

要約	2
はじめに	6
第1章 生徒のプロフィール	7
1. 学校生活の充実感とアルバイト	7
2. 自己像はモテない自分	14
3. どんなライフスタイルを望んでいるか	17
第2章 異性観と性意識	21
1. 生徒が好むファッションから異性観を探る	21
2. タイプの子	27
3. 異性とのつきあい観	33
4. 性をどうみているか	35
第3章 高校生の対異性行動	42
1. 軽いデート	42
2. 相手の有無とつきあい方	46
3. 「つきあい経験」のない高校生の願望	54
4. ナンパ-異性との接触を求めて	57
5. 性体験とそのレディネス	64
6. まとめ	68
第4章 相手のいる高校生をめぐって	69
1. 生活の充実感	69
2. 相手の有無と自己像	71
3. 異性観について	74
4. 性意識と性行動	78
資料1 調査票見本	83
資料2 基礎集計表	104



高校生の性とデート

要約

① 調査の目的

「高校生と性」(1988年深谷・三枝)では、高校生の活発化する性行動と性意識の実態を明らかにした。今回の調査では、6年を経た現在、高校生の性意識がどう変化したか、さらに、性に至る前段階としての高校生の対異性行動(デート)の現状や異性観の実態について明らかにすることを目的とした。

② 調査対象と方法

対象は、東京、埼玉の公立高校2、3年生2,012名(男子925名、女子1,087名)である。調査方法は学校通しの質問紙法により、1994年5月～7月に実施した。

調査票作成に際して、性に関する表現や質問の文章に十二分な配慮を加えたが、さらに実施に当たり、プライバシーが保たれるよう、クラス内で隣人と項目の配列の異なった調査票が配布されるように配慮した。回収後はそれを並べ替え、データ処理を行った。

③ 自己像

「異性にモテない」男子89.4%、女子92.7%。「異性に人気があるか」については、男子では「どちらからも人気がない」42.3%、

女子では「同性には人気があるが、異性にはぜんぜんモテない」47.6%が一番多く、「異性から関心を持たれていない自分」が生徒たちの8割が持つ自己像である(p.15表1-15、17)。

④ 好感を持つ異性のファッション

男子高校生のつきあいたい女の子のファッションは、自然で普段着の、女性性を感じさせないタイプである。女子も同様な傾向である。女子には成績との関連がみられ、成績上位者は「洗いざらしのジーンズとシャツ、ふつうのセーター、紺のゆかた」などのまじめな感じの子を好み、下位者では「サーファー、ピアスやシルバーリング、髪を脱色する」などの逸脱傾向のファッションを好む傾向がある(p.22表2-1、2)。

⑤ 好みの異性のタイプ

男子では「悩んでいるとき、さりげなく気をつかってくれる女の子」が「とても好き」41.2%、「わりと」を合わせると9割を超える。また、上位を占める項目は、これといった特性のない平凡な項目で、ノン・セックスで自分をしのぐ価値を持たない、つきあって

楽な子である。誇張された女性性やおとなっぽさを持っている子は1割以下で、好まれていない。女子も男子とはほぼ同様であるが、「甘えんぼうの子、お小遣いをたくさん持っている子、キスの上手な子、かっこよくキメている子」などの肯定率も4～5割あり、男子より危ないタイプへの関心が強い(p. 28 表2-4)。

⑥ 異性とのつきあい観

異性とのつきあい観では、異性回避傾向よりも、むしろつきあいのレディネスの方を強く感じる。彼らが望むのは「友だち感覚で特定の異性とつきあいたい」である。性差では、女子に異性とのつきあいの回避傾向がみられる(p. 34 表2-7)。

⑦ 異性交際と成績

1、2年でつきあう相手ができた場合、「成績が下がる」とする者は「とても・少し」を合わせても3割にすぎず、6割の者がほとんど影響しないと答えている。大学受験を控えた時期でさえも「受験まで完全につきあいをやめた方がいい」とするのは、男子6.8%、女子3.8%と僅少で、放課後までつきあうのは制限しても、電話や登下校を一緒にすることまでは制限する必要がないと判断している(p. 35 表2-8、9)。

⑧ 性体験の許容性

「結婚を前提としないSEXは絶対に避けるべきである」を肯定する割合は、男子22.7%、女子23.3%にすぎない。しかも、6年前の調査に比べ、半減に近い減少率であり、高校段階での性体験の許容性は6年間でさらに大

幅に上昇した(p. 36 表2-11)。

⑨ 性体験の許容性とその背景

「避妊さえ完全ならばSEXしてもかまわない」とする群、すなわち性体験の許容性の大きい高校生の自己像は、「スポーツが得意、音楽が好き、おしゃれのセンスがある、ルックスがいい、異性にモテる」など、若者らしい特性の持ち主が多い(p. 38 表2-14)。

さらに、つきあっている相手がいる生徒、すでに性体験をした生徒、成績の下位者に性体験の許容性が大きい(p. 38 表2-15、16、17)。

⑩ 性的欲求の肯定度

「アダルトビデオを、男子の友人とときどき見る男子高校生」について「非行があった」とする見方は5%を割り、「しかたがない」「ごく自然なこと」がほぼ半数である。女子高校生が見る場合について、「ごく自然なこと」とする割合は減少するが、「しかたがない」とする者は男子68.4%、女子74.8%と許容率は極めて大きい。高校ランク別では、男子高校生がアダルトビデオを見ることを「ごく自然なこと」とする者は、男女とも上位校には少ない。女子高校生が見ることも同様である(p. 40 表2-18、19)。

⑪ 軽いデートの体験

同じ高校の女の子(男の子)とイベントやショッピングに行ったこと、つまり「軽いデート」の体験は男子23.1%、女子27.4%と少ない。行った人数も1人が圧倒的に多く、回数も1回くらいである(p. 43 図3-1、表3-1)。

⑫ 特定の異性とのつきあい

「現在つきあっている相手がいる」生徒は男子13.6%、女子17.3%。「以前つきあっていた」を合わせても男子3割、女子4割である。学年が上がるにつれ体験が増え、成績の下位者、高校ランクでの下位校につきあっている体験を持つ者が多い（p.46 図3-3、表3-5、6、7）。

つきあっている（いた）相手は「同じ高校の人」が男子51.9%、女子43.8%と圧倒的に多く、「違う高校の人」を合わせると男子9割、女子7割が高校生どうしのつきあいである（p.48表3-8）。

つきあい方のスタイルをみると、「いつも・わりと」よくしていることは、男子は「登下校を一緒、手をつないだり肩を抱いて歩く」、女子では「登下校を一緒、長電話をする、高価なプレゼントをあげる（もらう）、彼の部屋に行く、手をつないだり肩を抱き合って歩く、デートの帰りに軽いキスをする」などの項目が3割を超え、男子に比べ女子の対異性行動の積極さがみられる（p.50表3-10、図3-4）。

⑬ つきあい経験のない高校生

「卒業するまで、相手はいらない」とする男子は30.6%、女子は18.2%、「できればずっとつきあえる相手を見つけたい」男子32.4%、女子40.5%と、男子に比べ女子に恋愛への関心の深さがみられる（p.54 図3-5）。

望むつきあい方のスタイルでは、性体験までは望んでいないが、キスするくらいまではと考えている。また、具体的なつきあい方では、「デートの帰りに軽いキスをする、手をつないだり肩を抱き合って歩く」ことを望む割合は男子7割、女子6割。「夏休みに2人でステキなペンションに旅行する」ことも男子6割、女子4割に達する。つきあっていない

い者でも意識の上での性行動はかなり積極的である（p.55表3-13、14）。

⑭ ナンパ

女子の6割はナンパされた体験を持ち、ナンパした経験を持つ男子は12.4%と意外に少ない。ナンパされたときの反応は「相手の顔も見ずに、ひたすら急いで歩く」者は男子14.7%、女子39.9%で、多少とも反応するのがふつうのようである（p.57表3-16、17）。

⑮ メディアとの接触

「ダイヤルQ2に電話したこと」がある男子は25.1%、女子19.5%、「テレクラに電話したこと」では男子8.9%、女子31.9%。「アダルトコミック、アダルトビデオ、アダルト雑誌」を「毎週・ときどき」読みたい（見たい）男子は3割を超える。女子は男子に比べ欲求は低いものの（2割以下）、女子の性意識の変化がみられる数値である（p.62表3-24、25）。

⑯ 性体験とそのレディネス

性体験者は男女11.5%、「たぶんするだろう」を合わせると25%前後の者が高校卒業までにSEXの体験をするかレディネスを持っている。男子は成績の上位・下位者に、女子は成績の下位者に、体験率が高い（p.64 図3-7、表3-26）。

⑰ 相手のいる高校生の自己像と生活

相手のいる者は「異性にモテる、スポーツが得意、音楽が好き、おしゃれのセンスがある、ルックスがいい、クラスや学校以外にも友だちがたくさんいる」と明るい自己像を持ち、性的存在としての自分に自信を持ち、放課後や休日の充実感のみならず、学校生活の充実感も高い（p.70 図4-1、2、表4-2、3）。

⑱ 相手のいる高校生の異性観

ファッションでは、男女ともやや危ない感じのする要素に魅力を感じる割合が高い。好みのタイプでは、男子は遊び感覚でつきあえ、少し危ない感じのコケティッシュな魅力を持つ女性を好む。女子も同様な傾向である（p.74 図4-3、4）。

⑲ 相手のいる高校生の性意識と性行動

相手のいる者は、ナンパされたり、ナンパする体験の割合が高い。また、刺激的な性情報への接触欲求も強く、ダイヤルQ2やテレクラへの接触体験の割合も高く、相手を求める行動に積極的である。相手のいない者は、対異性行動に消極的で、軽い恋愛を望む傾向がみられる（p.78 表4-6、7、8、11）。

「避妊さえ完全ならばSEXしてもかまわない」とする割合は、相手のいる男子83.9%、女子87.6%、相手のいない者（73.1%、71.3%）と比較し性体験の許容性が大きい（p.80 表4-10）。

⑳ 高校生が異性とつきあうことは、学校生活や放課後・休日の充実感を増し、性的存在

としての自分自身に自信を持ち、明るい自己像を持つようになる。現状では子どもたちの対異性行動は、多分に抑圧され歪められて受け止めがちである。高校生が「性の文化」を健康的なものとし、健全な「デートの文化」を作り上げていくためには、おとなの側に、健康な性の意識と異性に対する態度を築き上げる必要があるであろう。

〔調査概要〕

時期●1994年5月～7月

方法●学校通しによる質問紙調査

対象●東京・埼玉の公立高校15校の2・3年生2,012名(男子925名、女子1,087名)

サンプル構成

(人)

	男子	女子	合計
2年	634	734	1,368
3年	291	353	644
合計	925	1,087	2,012

はじめに

—ふたたび高校生の性意識を追って—

若者の性行動は、近年、世界的に活発化しているときれるが、それに対する社会的対応は国によってさまざまである。とりわけわが国は、この問題への対応に、大きな立ち遅れがあると指摘されている。

つい最近もマスコミによって、大勢の女子高校生による売春行為が報じられた。しかし高校生の性問題に対する関心は、こうした事件をきっかけに浮上するものの、またすぐ人々の関心から外れてしまう。世間は高校生の性問題を単に興味の対象としてしか見ないし、正確な現状認識も不足している。

深谷と三枝は1988年に、東京、埼玉、千葉の高校生対象に、高校生の性意識と性行動に関する調査を行った。中でも「避妊さえ完全ならば、高校生どうしSEXしても別に構わない」とする、現代の高校生の性意識の現状はわれわれを驚かせ、また高校生本人と、大学生、母親、教師調査の数値の大きな食い違いに、高校生の性問題の現状に対するおとなの対応の遅れの背景をみた思いがした（深谷・三枝、1988年）。

しかしその調査から、すでに6年を経た。この間に、高校生の性意識はどう変化したか。また性体験に至る前段階としての高校生の対異性行動（デート）はどのような現状にあるか。また最近行われた別の調査によると、性体験率は男子の場合むしろ以前より減少傾向にあるとも指摘されているが、彼らの異性観や対異性行動の実態は、どうなっているか。そうした視点から、今回の調査が企図された。

ちなみに同一項目を使用しての結果では、高校生の「性体験に対する許容性」は、6年間で図Aのように変化している。

図が示すように、「避妊さえ完全ならば、高校生どうしSEXしても構わない」とする者は、1988年には男子で61.9%だったのが今回は77.3%にも達し、15.4%の増加をみた。同じく女子は57.5%だったのが、76.7%と19.2%増加して、男子とほとんど肩を並べる勢いをみせている。たった6年間で、生徒たちの性に対する意識は、また大きく変わったかのようなのである。

図A 性体験の許容性



第 1 章

生徒のプロフィール

性やデートに関する調査結果に先立って、本章ではまず調査対象とした生徒がどのような学校生活を送り、どのように将来設計を考えているか、そのライフスタイルを明らかにしておく。

1. 学校生活の充実感とアルバイト

今回の調査は2年生68%、3年生32%と、2年生中心の調査となった（サンプル構成はp. 5）。男女交際を考える際、最も高校生の実態を把握できる学年であろう。調査時期は、平成6年5月から7月で、東京と埼玉の15校の公立高校で行われた。なおサンプルの所属

する高校を、進学情報誌をもとにして大学進学一覧表を作成し、上位校（4校、476人）、中位校（7校、1,023人）、下位校（4校、513人）に分類した（表1-1）。性に関しての文化差、学校風土の違いをみるための手続きである。

表1-1 高校ランクの分類

	高校入試合格基準値 (段階値)	4年制大学進学希望率 [※] (難しい大学)	学校数 サンプル数
上位校	10 9	7割以上 (2割以上)	4校 476人
中位校	8 7 6	2～7割未満 (1～2割未満)	7校 1,023人
下位校	5 4	2割未満 (1割未満)	4校 513人

※今回の調査対象者の進路希望
(この他大学別入学実績表を参考にした)

さて表1-2によれば、現在部活動に入って熱心に活動している生徒は、運動部と文化部を合わせると男子で46.5%、女子では47.9%であり、部活動の経験のある生徒も合計すると男子90.4%、女子89.9%とかなりの割合

を占めている。なお表1-3に示したように、高校ランクによって、大きな差がみられる。

また表1-4をみると、塾や予備校に通っている生徒は、男子30.0%、女子25.3%と少数である。なお高校ランク別にも、表1

表1-2 部活動への参加 × 性

	(%)	
	男子	女子
1. 運動部熱心	40.7	33.4
2. 運動部不熱心	14.3	10.0
3. 文化部熱心	5.8	14.5
4. 文化部不熱心	4.5	11.4
5. 以前に参加していた	25.1	20.6
6. 参加したことがない	7.0	6.8
7. その他	2.6	3.3

表1-3 部活動への参加 × 高校ランク

	(%)					
	男子			女子		
	上位校	中位校	下位校	上位校	中位校	下位校
1. 運動部熱心	56.7	38.6	27.5	49.2	31.8	23.5
2. 運動部不熱心	11.3	14.3	17.6	7.6	11.1	10.0
3. 文化部熱心	9.7	4.2	4.9	19.9	15.0	9.3
4. 文化部不熱心	4.2	5.9	1.5	4.7	15.6	9.3
5. 以前に参加していた	12.2	29.2	30.4	12.7	20.0	27.9
6. 参加したことがない	3.4	5.3	15.2	3.4	3.0	16.3
7. その他	2.5	2.5	2.9	2.5	3.5	3.7

- 5のように、上位校と下位校では大きな差がある。

次に成績については、表1-6から、自分の成績を上位（中の上を含めて）としている

生徒は男子27.4%、女子は29.8%、それに対して下位（中の下も含めて）としている生徒は男子46.4%、女子35.8%と、勉強に自信のない生徒が多くみられる。

表1-4 予備校や塾に通っている回数（1週間に）

	(%)							
	行っていない	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
男子	70.0	5.8	9.9	7.3	5.2	1.1	0.2	0.5
女子	74.7	6.7	10.4	4.4	2.7	0.7	0.2	0.2

表1-5 予備校や塾に通っている割合 × 高校ランク

	(%)	
	男子	女子
上位校	39.0	44.1
中位校	31.6	25.9
下位校	15.3	6.8

表1-6 成績

	(%)				
	上	中の上	中	中の下	下
男子	8.7	18.7	26.2	22.1	24.3
女子	8.2	21.6	34.4	20.4	15.4

また表1-7より、学校生活の充実感については、男子の55.4%、女子の65.1%が「とても・わりと」充実していると答えており、特に女子の充実感が高い。また表1-8に掲げたように、学校を終わってからの時間や休日については、充実していると感じている生

徒が、男子で51.0%、女子では59.5%と、学校生活よりやや充実度が低くなっている。なお女子の充実度が、ここでもやや高い。また、高校ランク別でも表に示したような特色がみられる。

表1-9によると、1か月のお小遣いの額

表1-7 学校生活の充実感 × 性・高校ランク

(%)

		とても充実している	わりと充実している	あまり充実していない	ぜんぜん充実していない
男子		10.8	44.6	30.8	13.8
女子		14.4	50.7	28.2	6.7
上位校	男子	15.4	51.2	26.1	7.3
	女子	22.3	51.0	21.1	5.6
中位校	男子	7.9	42.7	32.8	16.6
	女子	10.1	51.7	30.3	7.9
下位校	男子	12.1	41.1	31.7	15.1
	女子	15.6	48.6	30.2	5.6

表1-8 放課後や休日の充実感 × 性・高校ランク

(%)

		とても充実している	わりと充実している	あまり充実していない	ぜんぜん充実していない
男子		15.6	35.4	36.4	12.6
女子		13.8	45.7	33.8	6.7
上位校	男子	12.8	40.6	35.9	10.7
	女子	11.2	44.6	37.8	6.4
中位校	男子	14.2	33.2	39.5	13.1
	女子	11.6	43.3	37.6	7.5
下位校	男子	22.1	34.1	30.2	13.6
	女子	19.7	50.8	24.1	5.4

については、5千～1万円が男子48.9%、女子46.5%と約半数を占めるが、1万円以上も男子で16.5%、女子で13.9%いる。

図1-1によれば、現在アルバイトをしている生徒は男子16.6%、女子21.4%と、思ったより少ない。アルバイトを禁止（届け出制

も含めて）している学校が多いため、実数値よりも少ないことも考えられるが、表1-2の部活動への加入率と照らし合わせると、ふだんはアルバイトの余裕がない生徒も多いのであろう。夏休みなどの長期休みはまた別かもしれない。

表1-9 1か月のお小遣いの額

		(%)					
		もらっていない	3000円未満	3000～5000円未満	5000～7000円未満	7000～1万円未満	1万円以上
男	子	10.8	5.1	18.7	34.7	14.2	16.5
女	子	12.3	6.1	21.2	33.2	13.3	13.9

図1-1 アルバイトの体験

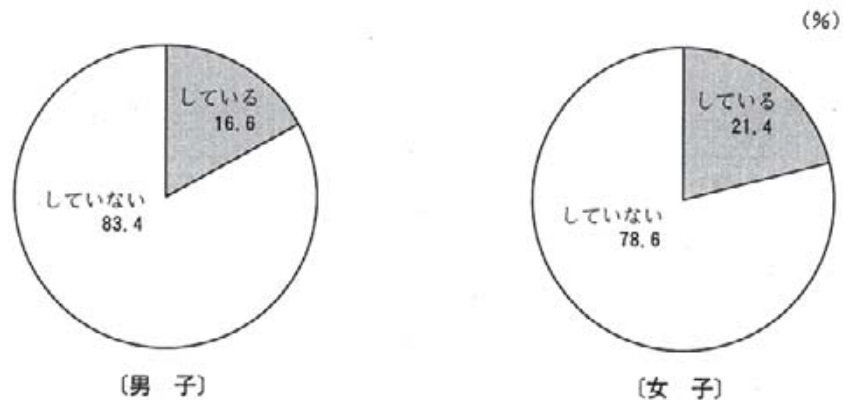


表1-10が示すように、男女ともに、高校ランクでは下位校の生徒の方がアルバイトをしている割合が高い。上位校では男子8.4%、女子10.6%であるが、下位校では33.5%、30.6%と大きな差がみられる。学年との関連は、表1-11に示したように男子は差がないが、女子は進路が多様化しているせいか、2

年生より3年生に多くなっている。

また、アルバイトをしている生徒と成績との関連(表1-12)をみると、成績中位群より、成績のいい者(上位群)と悪い者(下位群)にややアルバイトしている生徒の割合が多くみられる。

次にアルバイトをしている生徒の収入(表

表1-10 アルバイトをしている生徒 × 高校ランク

		(%)		
		上位校	中位校	下位校
男子		8.4	17.8	33.5
女子		10.6	21.0	30.6

表1-11 アルバイトをしている生徒 × 学年

				(%)
男子		女子		
2年	3年	2年	3年	
16.5	17.1	17.9	29.0	

表1-12 アルバイトをしている生徒 × 成績

		(%)				
		上	中の上	中	中の下	下
男子		18.4	11.8	11.9	17.6	24.2
女子		27.7	22.4	20.7	17.2	23.6

1-13) は、男子では4万円以上が41.0% (全生徒数の6.8%)、女子では2万~3万円が30.4% (全生徒数の6.5%)と比較的高収入の生徒が多い。何のためにアルバイトをしているのか知りたい気がする。高校ランクとの関連(表1-14)をみると、男子では、上

位校の生徒は2万円未満が35.2%、4万円以上は29.7%である。これに対して下位校の生徒は、4万円以上の生徒が51.2%で、これはアルバイトをしている日数が多いためであろう。女子は男子ほどの差はないが、似た傾向にある。

表1-13 アルバイト収入

	(%)						
	5000円未満	5000~1万円未満	1万~1万5千円未満	1万5千~2万円未満	2万~3万円未満	3万~4万円未満	4万円以上
男子	4.0	6.0	8.1	8.1	15.4	17.4	41.0
女子	2.6	5.7	11.3	8.7	30.4	19.1	22.2

表1-14 アルバイト収入 × 高校ランク

(1) 男子

	(%)		
	上位校 (37人)	中位校 (67人)	下位校 (45人)
2万円未満	35.2	29.9	13.3
2万~3万円未満	21.6	13.4	13.3
3万~4万円未満	13.5	16.4	22.2
4万円以上	29.7	40.3	51.2

(2) 女子

	(%)		
	上位校 (63人)	中位校 (80人)	下位校 (87人)
2万円未満	30.2	38.7	18.4
2万~3万円未満	25.4	28.7	35.6
3万~4万円未満	23.8	21.3	13.8
4万円以上	20.6	11.3	32.2

2. 自己像はモテない自分

次に生徒の自己像をみていこう。

表1-15によれば、生徒の自己像はプラスの評価としては（「とても」・「わりと」を合わせて）、男子は「音楽が好き（82.6%）、学校以外の友だちが多い（57.2%）、スポーツが得意（52.6%）、クラスで友だちが多い（51.9%）」であり、女子では、「音楽が好き（89.8%）、クラスで友だちが多い（57.3%）、読書が好き（57.1%）」である。一方マイナ

ス傾向としては、男子は「異性にモテない（89.4%）、よく勉強していない（85.7%）、ルックスがよくない（84.5%）、おしゃれのセンスがない（79.2%）、いつも面白いことを言っても、みんなに受けない（72.5%）」であり、女子では、「異性にモテない（92.7%）、ルックスがよくない（89.6%）、よく勉強していない（88.9%）」と、青春時代のまったただ中では、かなりつらいものがあるようだ。

表1-15 自己像

		(%)			
		とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
1. スポーツが得意	男子	15.2	37.4	33.2	14.2
	女子	5.8	34.0	39.2	21.0
2. 音楽が好き	男子	37.7	44.9	14.6	2.8
	女子	44.1	45.7	9.6	0.6
3. 読書が好き	男子	14.8	28.7	31.0	25.5
	女子	21.2	35.9	29.4	13.5
4. おしゃれのセンスがある	男子	4.4	16.4	53.7	25.5
	女子	3.1	25.0	60.4	11.5
5. ルックスがいい	男子	5.5	10.0	54.3	30.2
	女子	2.6	7.8	54.3	35.3
6. よく勉強している	男子	3.3	11.0	40.9	44.8
	女子	1.0	10.1	45.8	43.1
7. いつも面白いことを言っ て、みんなに受ける	男子	6.7	20.8	50.2	22.3
	女子	6.6	30.9	50.0	12.5
8. クラスで友だちが多い	男子	9.5	42.4	38.0	10.1
	女子	8.8	48.5	36.6	6.1
9. 異性にモテる	男子	3.3	7.3	50.1	39.3
	女子	2.0	5.3	42.8	49.9
10. 学校以外に遊びや趣味の 友だちがたくさんいる	男子	20.8	36.4	30.9	11.9
	女子	16.1	35.4	40.4	8.1

この中で、異性にモテるタイプの自己像を分析してみると、成績との関連（表1-16）については、男子では、成績上位者が異性に「モテる」と思っており、女子では、成績上位者の方が、逆に自信を持っていない。

また、表1-17で自分が「異性に人気があるか」についてみると、男子では、「どちら

からも人気がない」が42.3%と最も多く、女子では、「同性には人気があるが、異性にはぜんぜんモテない」が47.6%と一番多い。いずれにせよ、「異性から関心を持たれていない自分」が、生徒たちの8割が持つ自己像である様子は、寂しい青春という感じを受ける。

表1-16 異性にモテるタイプ（自己像）× 成績

	(%)				
	上	中の上	中	中の下	下
男子	20.0	9.3	10.1	8.3	11.0
女子	4.8	10.2	6.6	7.9	7.1

「とても」+「わりと」そう思う割合

表1-17 異性に人気があるか

	(%)	
	男子	女子
1. 同性には人気があるが、異性にはぜんぜんモテない	35.2	47.6
2. 異性から好かれるが、同性には反発をうけやすい	4.0	5.2
3. 同性にも異性にも人気がある	18.5	15.0
4. どちらからも人気がない	42.3	32.2

3. どんなライフスタイルを望んでいるか

卒業後の進路については、図1-2が示すように、男子は、4年制大学進学希望者が70.1%、専修・専門学校も含めると、進学希望者はおよそ80%を占める。それに対し女子

は、4年制大学進学希望者40.4%、短期大学17.9%、専修・専門学校15.8%、就職16.2%と多岐にわたっている。

両親の学歴は、表1-18に示した。

図1-2 卒業後の進路

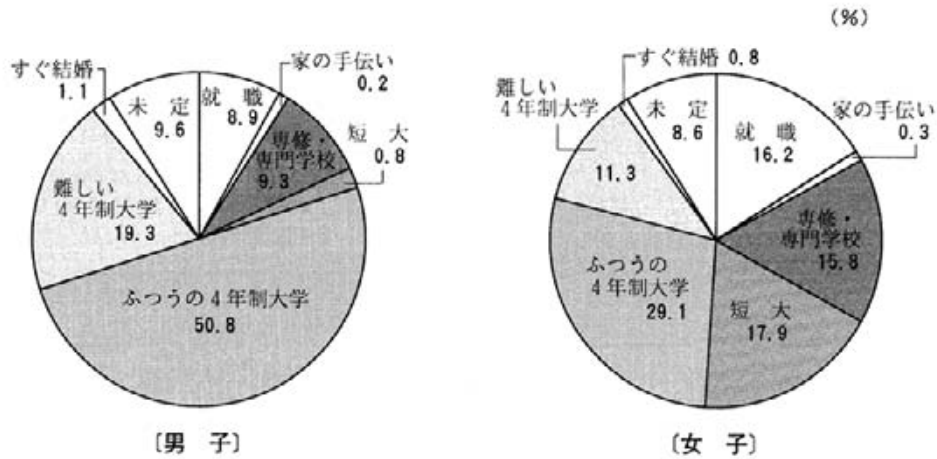


表1-18 両親の学歴
(あなたのご両親が、最後に学校を出られたのは何歳でしたか。)

		(%)				
		15歳	18歳 (高卒)	20歳	22歳	23歳以上
父親	男子	9.4	38.9	4.0	28.2	19.5
	女子	13.2	40.7	4.5	25.3	16.3
母親	男子	8.4	57.0	11.2	17.9	5.5
	女子	12.8	58.7	11.8	12.7	4.0

次に、生徒の恋愛・結婚観、将来のライフスタイルについてもみておく。表1-19によると、全体としては「絶対恋愛結婚をしたい」生徒が多いが、女子に幾分その希望が強い。女子の方が結婚へのあこがれが強く、男子の方が多少現実的なものかもしれない。また、男女ともに、遊び相手と結婚相手を区別して

いない純粹さがあるのは、ほほえましい。

学年による差を表1-20でみると、男女ともに学年が上がると、「恋愛でも見合いでもいい」という割合が少し増えている。

また結婚したい年齢については、表1-21が示すように、男子は24～27歳が62.8%、女子は22～25歳が63.2%を占めている。

表1-19 恋愛か見合いか

		(%)	
		男子	女子
1.	絶対恋愛結婚をしたい	51.7	58.9
2.	遊び相手とは恋愛しても、結婚相手は見合いの方がいい	1.4	1.3
3.	恋愛でいい人と出会える自信がないので、見合いの方がいい	0.8	0.7
4.	いい相手にめぐり会えたら、恋愛でも見合いでもいい	46.1	39.1

表1-20 恋愛か見合いか × 学年

		(%)			
		絶対恋愛	遊び相手は恋愛、結婚は見合い	見合いの方がいい	恋愛でも見合いでもいい
男子	2年	53.7	1.2	0.8	44.3
	3年	47.6	1.9	0.7	49.8
女子	2年	61.4	1.0	0.8	36.8
	3年	53.9	1.8	0.3	44.0

表1-21 結婚したい年齢

		(%)							
		したくない	18～19歳	20～21歳	22～23歳	24～25歳	26～27歳	28～29歳	30歳以上
男子		6.6	1.5	3.1	12.6	33.5	29.3	9.3	4.1
女子		6.6	2.3	6.1	24.4	38.8	16.4	4.1	1.3

またライフスタイルについて表1-22で見ると、男子は妻に望むライフスタイルとして、「子どもが生まれたら仕事をやめて、適当な時期にパートなどを始める」が46.9%と最も多く、次いで「専業主婦」が36.2%と両方で83.1%を占める。これに対し女子は、やはり「子どもが生まれたら仕事をやめて、適当な時期にパートなどを始める」が37.8%と多いが、「専業主婦」は22.8%と少なく、「家事育

児と仕事を両立させる」が31.0%、また、「独身で仕事に専念する」という生徒も8.4%いる。女子は何らかの形で社会とかかわっていく生き方を望むのに対して、男子はやや保守的な傾向がみられる。なお成績との関連については、表1-23より、男子では成績上位者に専業主婦を望む割合が高いが、女子は成績上位者ほど仕事を継続していく希望者が多い。

表1-22 希望するライフスタイル

	(%)	
	妻に望む ライフスタイル	女子高校生が望む ライフスタイル
1. 専業主婦	36.2	22.8
2. 子どもが生まれたら1度仕事をやめて、適当な時期にパートなどを始める	46.9	37.8
3. ずっと、家事育児と仕事を両立させる	16.9	31.0
4. 独身で仕事に専念する	-	8.4

表1-23 希望するライフスタイル × 成績

		(%)			
		専業主婦	子どもが生まれ たらパートに	家事育児と 仕事を両立	独身で 仕事に専念
男子	上	40.5	36.5	23.0	-
	中の上	35.8	48.5	15.7	-
	中	33.6	49.6	16.8	-
	中の下	34.9	48.7	16.4	-
	下	39.0	44.5	16.5	-
女子	上	18.3	36.6	32.9	12.2
	中の上	24.2	35.0	34.9	5.9
	中	24.6	36.4	32.0	7.0
	中の下	20.1	40.7	29.9	9.3
	下	23.5	40.6	24.8	11.1

最後に、表1-24によれば、生き方としての「家庭か仕事か」に対しては、男子は「両方ともほどほどに」が52.5%で、「家庭中心」が33.1%、これに対して「仕事中心」はわずか14.4%であり、女子は「家庭中心」の人生が53.1%である。「男子は仕事」という生き方は、もはや魅力のないものになってきていることがわかる。

このことを成績との関連(表1-25)でみていくと、男子では、成績上位者は「仕事中心」の割合が多く、中の上の生徒は、「家庭中心」または「仕事も家庭もほどほどに」と

答える生徒が91.4%と多数を占める。他方、女子は、成績の上位者、または下位者が「仕事中心」のライフスタイルを望んでいるのが興味深い。成績はかんばしくなくとも、仕事で身を立てようとするのだろうか。

以上、今回の調査対象のプロフィールをざっとみてきた。これらを踏まえて高校生たちが、異性や性そのものに対して、どのような認識や態度を持っているかについて、次章から検討していきたい。

表1-24 家庭か仕事か

(%)		
	男子	女子
1. どちらかといえば仕事中心の人生	14.4	13.8
2. どちらかといえば家庭中心の人生	33.1	53.1
3. 仕事も家庭もほどほどに	52.5	33.1

表1-25 家庭か仕事か × 成績

		(%)		
		どちらかといえば 仕事中心	どちらかといえば 家庭中心	仕事も家庭も ほどほどに
男子	上	25.3	22.7	52.0
	中の上	8.6	36.4	55.0
	中	12.7	33.2	54.1
	中の下	14.1	36.1	49.8
	下	17.1	31.2	51.7
女子	上	17.1	48.8	34.1
	中の上	11.4	58.5	30.1
	中	14.4	53.0	32.6
	中の下	11.7	53.2	35.1
	下	16.6	49.0	34.4

第2章

異性観と性意識

高校生の対異性行動の現状を明らかにする前に、まずその背景ともいべき「異性観や性意識」をみておきたい。この章では、まず彼らの好む異性像を明らかにし、さらに彼らの性に対する意識や態度に接近してみたいと考える。

1. 生徒が好むファッションから異性観を探る――

人がどんなファッションを好むかは、その人の自己表現であるとされる。とすれば、生徒がどんなファッションの異性を好むかをみれば、彼らの異性観や性意識に多少とも近づくことができそうである。

まず表2-1は、現代の若者ファッションを挙げて、「どんなファッションが似合う相手とつきあいたいか」聞いてみたものである。

一見してわかるように、男子高校生のつきあいたがっている女の子は、自然で普段着の、いわば女性を感じさせない相手である。表2-1で「とてもそう」の数値を拾えば、「サラサラ髪」の38.8%を筆頭に、以下「ふつうのセーター、紺のゆかた、ジーパン、ブレザーにチェックのスカート、きちんとした制服」と続く。女性性や成熟した女性を感じさせる服装「DCブランドでキメる、レースやフリルの服、スパッツコンシャス、超ミニ」は、4項目とも下位で、1割かそれ以下でしか

ない。

女子はどうか。女子も同様で、「洗いざらしのジーパン」に44.3%が集まり、以下「ふつうのセーター、ネルシャツ、きちんとした制服、紺のゆかた」と続く。9位以下の「ヘビメタ、リーゼント、長髪、ネックレスやリング、DCブランド」は5%以下である。

また男女を比較してみると、項目が違うので一概には言えないが、それでも男子は、多少ともおとなっぽいセクシーな女性の服装を好む傾向もみられる。仮に男子の項目の7番目から10番目までをおとなっぽさや危ない魅力の項目とすれば、「とても・わりとそう」と肯定する者は、平均すると25.5%であるが、女子は7番目から13番目までを平均しても、17.2%と多少低い。しかし男子生徒の数字は、成熟した女性への関心の存在か、それとも視覚的なレベルにとどまる傾向なのかは、これだけでは決められないかもしれない。

表 2-1 好感を持つ異性のファッション

(1) 男子

(%)

	とてもそう	わりとそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. サラサラの髪が似合う子	38.8	49.2	10.0	2.0
	88.0			
2. ふつうのセーターが似合う子	22.0	56.1	17.7	4.2
	78.1			
3. プレザーにチェックのスカートが似合う子	19.7	46.6	28.2	5.5
	66.3			
4. 制服をきちんと着ている子	17.4	48.0	29.4	5.2
	65.4			
5. 紺のゆかたが似合う子	21.4	43.3	28.2	7.1
	64.7			
6. 洗いざらしのジーパンとシャツが似合う子	20.7	43.3	28.5	7.5
	64.0			
7. 超ミニスカートが似合う子	11.4	22.0	46.6	20.0
	33.4			
8. スパッツコンシャスが似合う子	6.1	21.8	54.8	17.3
	27.9			
9. レースやフリルのたくさんついた服が似合う子	4.0	17.4	53.6	25.0
	21.4			
10. DCブランドでかっこよくキメている子	4.5	14.8	57.3	23.4
	19.3			

(2) 女子

(%)

	とてもそう	わりとそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 洗いざらしのジーパンとシャツが似合う子	44.3	39.8	12.5	3.4
	84.1			
2. ふつうのセーターが似合う子	28.2	46.1	19.7	6.0
	74.3			
3. ネルシャツをルーズに着るのが似合う子	22.3	46.8	22.3	8.6
	69.1			
4. 制服をきちんと着ている子	13.7	41.0	36.4	8.9
	54.7			
5. アメカジでキメている子	5.3	31.7	42.5	20.5
	37.0			
6. 紺のゆかたが似合う子	10.0	23.6	42.3	24.1
	33.6			
7. サーファーの似合う子	8.9	22.1	41.4	27.6
	31.0			
8. ピアスやシルバリングが似合う子	8.5	15.8	35.2	40.5
	24.3			
9. DCブランドでかっこよくキメている子	3.2	16.0	46.5	34.3
	19.2			
10. 髪を脱色しネックレスやリングが似合う子	4.9	11.5	25.6	58.0
	16.4			
11. 長髪が似合う子	4.9	7.9	20.9	66.3
	12.8			
12. リーゼントが似合う子	3.2	8.9	26.9	61.0
	12.1			
13. ヘビメタ調の服が似合う子	1.9	2.4	20.9	74.8
	4.3			

なお成績別にみても、表2-2に示したように、女子には成績と好むファッションとの関連がみられ、成績がいい子は「洗いざらしのジーパンとシャツが似合う子、ふつうのセーターが似合う子、紺のゆかたが似合う子」などのまじめな感じの子を好み、成績の下位者は上位者より「サーファー、ピアスや

シルバーリング、髪を脱色しネックレスやリング」など逸脱傾向のファッションをした子を好む傾向がみられる。

また高校ランク別では、表2-3に示したように、いわば好むファッションの文化差がみられ、とくに女子に顕著である。表が示すように、男子では上位校ほど「制服をきちん

表2-2 好感を持つ異性のファッション × 成績

(1) 男子

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
1. 洗いざらしのジーパンとシャツが似合う子	60.0	< 62.2	< 64.2	< 65.5	< 67.5

(2) 女子

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
1. 洗いざらしのジーパンとシャツが似合う子	89.1	> 83.6	> 86.7	> 83.9	> 78.1
2. ふつうのセーターが似合う子	78.4	> 77.5	> 76.6	> 76.6	> 61.4
3. 紺のゆかたが似合う子	38.8	> 32.8	> 33.6	> 33.5	> 31.6
4. サーファーの似合う子	24.4	< 25.2	< 30.4	< 31.4	< 43.2
5. ピアスやシルバーリングが似合う子	17.0	< 20.1	< 22.1	< 28.1	< 33.1
6. 髪を脱色しネックレスやリングが似合う子	12.2	< 11.9	< 14.8	< 20.4	< 24.2

「とても」+「わりと」その割合

と着ている」子が、また下位校ほど「サラサラ髪、スパッツコンシヤス、レースやフリルのたくさんついた服」が好まれている。また、上位校と中位校の差はそれほどでないが、下位校に大きな差がみられる。男子に例をとれば、「ふつうのセーター、紺のゆかた」は、

下位校では好まれておらず、「レースやフリルのたくさんついた服、DCブランド」が、下位校で好まれている。女子も「サーファー、脱色した髪やネックレス、DCブランド」などが、大きく下位校で好まれている。

表 2-3 好感を持つ異性のファッション × 高校ランク

(1) 男子

(%)

	上位校		中位校		下位校
1. 制服をきちんと着ている子	69.6	>	64.7	>	62.1
2. ふつうのセーターが似合う子	79.6		81.1	>	69.7
3. ブレザーにチェックのスカートが似合う子	63.3		69.1	>	62.1
4. 紺のゆかたが似合う子	63.5		69.2	>	45.6
5. 洗いざらしのジーパンとシャツが似合う子	58.8		63.8	>	60.3
6. 超ミニスカートが似合う子	32.6		34.8	>	31.2
7. サラサラの髪の似合う子	86.5	<	87.6	<	90.5
8. スパッツコンシヤスが似合う子	24.8	<	28.5	<	30.1
9. レースやフリルのたくさんついた服が似合う子	15.7	<	20.8	<	29.4
10. DCブランドでかっこよくキメている子	18.8		15.8	<	27.8

「とても」+「わりと」その割合

(2) 女子

(%)

	上位校		中位校		下位校
1. 洗いざらしのジーパンとシャツが似合う子	91.3	>	82.2	>	75.7
2. ふつうのセーターが似合う子	84.3	>	76.7	>	62.4
3. ネルシャツをルーズに着るのが似合う子	65.8		70.8	>	68.7
4. 制服をきちんと着ている子	64.9	>	53.9	>	48.5
5. アメカジでキメている子	41.0	>	37.6	>	33.0
6. 紺のゆかたが似合う子	36.0	>	33.7	>	28.2
7. サーファーの似合う子	24.3	<	28.2	<	41.0
8. ピアスやシルバーリングが似合う子	13.9	<	23.4	<	26.2
9. 髪を脱色しネックレスやリングが似合う子	8.2	<	13.0	<	29.1
10. リーゼントが似合う子	7.4	<	11.8	<	16.3
11. ヘビメタ調の服が似合う子	1.7	<	4.4	<	6.0
12. 長髪が似合う子	8.6	<	14.1		14.0
13. DCブランドでかっこよくキメている子	19.0		16.3	<	24.2

「とても」+「わりと」その割合

2. タイプの子

「タイプじゃない」という言い方を高校生は好んで使うが、次にそのタイプとは何か、高校生の好みのタイプを探ってみよう。表2-4は、「あなたが好感を持つ異性は」に対する結果を「とても・わりと好き」な順に並べてある。

1から15まで、友だち感覚でつきあえる子や、母親っばい子、性的魅力を持つ子まで、多様なタイプを設定して好感度をみた。

男子の「タイプの相手」をみると、表でも好感が持てる子として挙げられているのは「悩んでいるとき、さりげなく気をつけてくれる女の子」で、「とても好き」が41.2%と他を引き離して高く、「わりと」を合わせると9割を超えてしまう。いわば母親のように世話してくれる子、のイメージだろうか。1位から4位までの上位に位置しているのは、これといった特性のない、平凡さとまとめられそうである。いわばノン・セックスで、自分をしのぐ価値を持たない、つきあって楽な子といえようか。

その後、いわゆる社会的価値を持っている子が続く。「美人、てきぱきした子、勉強のできる子」がそれである。さらに表の下部をみると、ファッションの項でみたように、やはり、誇張された女性性やおとなっぽさを

持っている子は1割以下で、好まれていない。「魚をさわって『キャー』」とか言う子、お嬢様っばい子、お小遣いをたくさん持っている子、キスの好きな子」などは「とても・わりと」を合わせても2~3割の肯定率でしかない。

次に女子の「タイプの相手」はどうか。表が示すように、全体としては、男子と同一傾向にあり、「とても・わりと好き」を合わせると90~95%前後の好意度を示す項目が、「友だち感覚の、男どうしのつきあいを大切にす、スポーツが得意、女の子にやさしい」で、男子より一定のタイプに集中する傾向がみられる。ここでも男子同様、安全でノン・セックスなタイプが上位に挙がっている。

下位の方をみると、遊び慣れた感じの子や、幼い感じの子は敬遠されていて、「甘えんぼう、お小遣いをたくさん持っている、キスが上手、かっこよくキメている、流行のお店をよく知っている」などは好まれていない。しかし男子と違うのは、こうした下位項目にも、男子より肯定率が高く、4~5割の肯定率を持っている点である。つまり、男子よりも危ないタイプへの関心の幅が広く、性的にはおとなっぽい子も多いと言えそうである。

表 2 - 4 好感を持つ異性のタイプ

(1) 男子

(%)

	とても好き	わりと好き	あまり好きでない	ぜんぜん好きでない
1. 悩んでいるとき、さりげなく気をつけてくれる女の子	41.2	49.6	6.6	2.6
	90.8			
2. 気をつかわないですむ友だち感覚の女の子	29.9	48.7	16.0	5.4
	78.6			
3. 地味で目立たないが、やさしい女の子	18.3	54.3	21.3	6.1
	72.6			
4. おとなしい清楚な感じの女の子	25.6	42.3	25.1	7.0
	67.9			
5. てきぱきした女の子	10.8	50.4	31.3	7.5
	61.2			
6. 美人で評判の女の子	18.3	39.3	33.0	9.4
	57.6			
7. 勉強のできる女の子	11.2	43.4	34.6	10.8
	54.6			
8. 人なつこく目えんぼうの女の子	8.8	38.5	37.9	14.8
	47.3			
9. いつもギャグを言って、みんなを笑わせる女の子	4.3	38.5	43.9	13.3
	42.8			
10. 流行のファッションでキメている女の子	6.5	34.6	43.3	15.6
	41.1			
11. おとなっぽく、甘えられる女の子	10.9	29.1	42.5	17.5
	40.0			
12. キスの好きな女の子	9.9	25.6	44.7	19.8
	35.5			
13. お小遣いをたくさん持っている女の子	7.9	19.1	45.6	27.4
	27.0			
14. お嬢様っぽい女の子	7.7	19.1	45.4	27.8
	26.8			
15. 魚をさわって「キャー」とか言う女の子	2.8	15.7	47.0	34.5
	18.5			

(2) 女子

(%)

	とても好き	わりと好き	あまり好きでない	ぜんぜん好きでない
1. 気をつかわないですむ友だち感覚の男の子	54.6	40.9	3.8	0.7
	95.5			
2. 男どうしのつきあいを大切にする男の子	43.6	50.9	4.6	0.9
	94.5			
3. スポーツが得意な男の子	54.3	39.3	5.1	1.3
	93.6			
4. 女の子にやさしい男の子	49.6	40.3	8.8	1.3
	89.9			
5. いつもギャグを言って、みんなを笑わせる男の子	41.1	45.9	10.6	2.4
	87.0			
6. 面倒みがよく、よく気がつく男の子	24.1	50.7	21.5	3.7
	74.8			
7. 地味が目立たないが、誠実な男の子	14.0	44.3	30.7	11.0
	58.3			
8. 勉強のできる男の子	8.5	48.9	32.3	10.3
	57.4			
9. ハンサムで評判の男の子	13.7	40.6	37.0	8.7
	54.3			
10. 女の子に人気がある男の子	5.9	47.6	38.6	7.9
	53.5			
11. 流行のお店をよく知っている男の子	6.2	44.0	37.3	12.5
	50.2			
12. かっこよくキメている男の子	6.0	43.1	41.2	9.7
	49.1			
13. キスの上手な男の子	11.9	36.9	38.7	12.5
	48.8			
14. お小遣いをたくさん持っている男の子	8.7	38.9	41.9	10.5
	47.6			
15. 人なつっこく甘えんぼうの男の子	9.0	28.6	41.1	21.3
	37.6			

なお、成績との関連をみると、表2-5に示したようにファッションでみられたと同じ傾向がここでもみられる。男子では、成績のいい子は「地味でやさしい子、おとなしい清楚な子、勉強のできる子、お嬢様っぽい子」を好み、成績下位者は「流行のファッション

でキメている子、キスの好きな子」を好み、女子も成績のいい子は「男どうしのつきあいを大切にする子、気がつく子、誠実な子、勉強のできる子」を好み、下位者は「流行のお店をよく知っている子、キスの上手な子」を好む傾向がみられる。

表2-5 好感を持つ異性のタイプ × 成績

(1) 男子		(%)				
	上	中の上	中	中の下	下	
1. 地味で目立たないが、やさしい女の子	76.0	> 74.8	> 73.2	73.7	> 68.1	
2. おとなしい清楚な感じの女の子	71.0	78.0	> 69.4	> 66.0	> 60.7	
3. 勉強のできる女の子	64.5	> 55.8	> 53.8	59.3	46.1	
4. お嬢様っぽい女の子	44.0	> 26.5	> 23.3	< 25.8	< 26.9	
5. 流行のファッションでキメている女の子	38.7	> 33.5	33.5	< 46.5	< 49.2	
6. キスの好きな女の子	34.7	> 31.3	> 30.2	< 36.5	< 44.1	

(2) 女子		(%)				
	上	中の上	中	中の下	下	
1. 男どうしのつきあいを大切にする男の子	96.4	> 95.5	> 95.1	95.6	90.8	
2. 面倒みがよく、よく気がつく男の子	83.1	> 77.4	78.0	> 71.7	> 66.4	
3. 地味で目立たないが、誠実な男の子	68.7	> 63.9	> 60.0	> 59.4	> 43.2	
4. 勉強のできる男の子	71.6	> 63.8	> 58.8	> 53.9	> 45.5	
5. キスの上手な男の子	46.9	< 48.6	47.5	< 49.2	< 55.8	
6. 流行のお店をよく知っている男の子	44.5	< 48.8	48.0	< 51.4	< 57.1	

「とても」+「わりと」好きの割合

ついでに高校ランクとの関連を表2-6に示した。成績以上に高校ランクの差が顕著で、男子は「友だち感覚、てきぱきした、お嬢様っぽい、清楚な」、また逆方向としては「ファッションでキメる、『キャー』とか言う、

甘えられる」に、女子は「勉強のできる、誠実な、友だち感覚の」で、また反対方向としての「甘えんぼう」に、とくに学校差がみられる。

表2-6 好感を持つ異性のタイプ × 高校ランク

(1) 男子 (%)

	上位校		中位校		下位校
1. 悩んでいるとき、さりげなく気をつけてくれる女の子	94.0	>	90.0	>	88.8
2. 気をつかわないですむ友だち感覚の女の子	83.4	>	79.3	>	71.1
3. 地味で目立たないが、やさしい女の子	75.1	>	73.4	>	67.9
4. てきぱきした女の子	67.0	>	60.7	>	55.7
5. 勉強のできる女の子	56.3	>	54.9	>	51.8
6. お嬢様っぽい女の子	34.3	>	28.3	>	19.9
7. おとなしい清楚な感じの女の子	69.1		73.0	>	55.1
8. キスの好きな女の子	34.9		39.3	>	27.3
9. 流行のファッションでキメている女の子	32.5	<	43.5	<	45.5
10. いつもギャグを言って、みんなを笑わせる女の子	41.8	<	42.4	<	44.9
11. 魚をさわって「キャー」とか言う女の子	12.6	<	19.2	<	24.1
12. お小遣いをたくさん持っている女の子	20.2	<	30.3		27.4
13. おとなっぽく、甘えられる女の子	33.9		29.3	<	42.7
14. 人なつこく甘えんぼうの女の子	40.8		50.4		48.0
15. 美人で評判の女の子	59.2		56.4		58.5

「とても」+「わりと」好きの割合

(2) 女子

(%)

	上位校		中位校		下位校
1. 女の子にやさしい男の子	91.5	>	89.8	>	88.7
2. 勉強のできる男の子	72.2	>	53.9	>	39.1
3. 地味で目立たないが、誠実な男の子	67.2	>	60.4	>	43.8
4. スポーツが得意な男の子	95.3		93.3	>	92.7
5. 気をつかわないですむ友だち感覚の男の子	95.3		96.8	>	71.4
6. 男どうしのつきあいを大切にする男の子	95.7		95.7	>	91.3
7. 面倒みがよく、よく気がつく男の子	76.8		77.1	>	69.4
8. 女の子に人気がある男の子	54.5		54.9	>	50.0
9. ハンサムで評判の男の子	54.3		55.2	>	52.6
10. いつもギャグを言って、みんなを笑わせる男の子	84.0	<	87.1	<	89.0
11. キスの上手な男の子	45.3	<	48.0	<	52.2
12. 人なつっこく甘えんぼうの男の子	27.5		38.6	<	43.5
13. 流行のお店をよく知っている男の子	45.3		29.9		54.5
14. かっこよくキメている男の子	49.1		49.2		49.8
15. お小遣をたくさん持っている男の子	40.2		51.4		46.8

「とても」+「わりと」好きの割合

3. 異性とのつきあい観

最近、異性への接近意欲と反対に、異性回避傾向も強まったとする指摘もあるが、本当だろうか。表2-7は、異性接触への気おくれをみようとした項目である。男子の「とても・わりとそう」の割合の高い順に並べてある。しかしどの項目をとってみても、強く肯定する生徒は少数でしかない。

「とてもそう」が最も高い項目をみても、男子は「魅力的でつきあいたい人がまわりにいない」で、やっと10.3%（女子14.8%）、女子でも「高校時代は、異性よりたくさん同性の友だちとつきあいたい」で15.1%（男子8.0%）でしかない。「とても・わりとそう」までをとってみても、「高校時代は、異性よりたくさん同性とつきあいたい」が、男子44.2%、女子65.4%、「つきあいたい人がまわりにいない」が、36.0%と45.3%、の数値が高いくらいである。

全体としては、異性回避傾向よりも、むしろつきあいのレディネスのほうが強く感じら

れる。例えば「異性とつきあっても、友だち以上の関係にはなりたくない」を否定する生徒は、「あまり・ぜんぜんそうでない」を合わせて男子87.0%、女子76.5%にも達する。また「異性への関心はあるが、特定の人とはつきあいたくない」を否定する生徒は、男子83.7%、女子86.0%と圧倒的に多い。友だち感覚で特定の異性とつきあいたい、ということころだろう。

性差をみると、女子の方に、異性とのつきあいの回避傾向がみられる。先にみた「つきあいたい人がまわりにいない」「異性よりたくさん同性の友だちとつきあいたい」の数値の差も大きかったが、女子のこうした傾向は「キスやSEXのことを考えると、つきあうのがわずらわしい」38.2%（男子25.8%）、「片思いの方が楽しい」40.9%（28.1%）にも表れている。

なお成績、高校ランクとの関連は男女ともほとんどみられなかった。

表2-7 異性とのつきあい観

(%)

		とても そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 高校時代は、異性よりたくさん の同性の友だちとつきあいたい	男子	8.0	36.2	45.0	10.8
	女子	15.1	50.3	29.6	5.0
2. 魅力的でつきあいたいと思える人 がまわりにいない	男子	10.3	25.7	39.7	24.3
	女子	14.8	30.5	31.2	23.5
3. 相手に気に入ってもらえるプレゼ ントやデートコースを考えること が面倒なのでつきあいたくない	男子	5.7	22.6	45.9	25.8
	女子	2.9	14.5	49.6	33.0
4. キスやSEXのことを考えると、 つきあうのがわずらわしい	男子	5.0	20.8	47.4	26.8
	女子	9.5	28.7	43.7	18.1
5. 特定の相手と深くつきあうより、 何人か違う相手とつきあった方が よい	男子	6.6	18.5	45.6	29.3
	女子	4.4	18.7	44.9	32.0
6. 実際につきあうより片思いの方が 楽しい	男子	3.1	20.0	47.4	29.5
	女子	5.7	35.2	46.4	12.7
7. 女の子は性知識にくわしいので、 気おくれして誘えない	男子	4.0	15.5	51.7	28.8
	女子	-	-	-	-
8. 異性への関心はあるが、特定の 人とはつきあいたくない	男子	4.6	11.7	50.4	33.3
	女子	3.1	10.9	51.6	34.4
9. 異性につきあっても、友だち以上 の関係にはなりたくない	男子	2.2	10.8	54.9	32.1
	女子	3.4	20.1	52.5	24.0
10. 男の子はなんとなく気持ちが悪い ので、つきあいたくない	男子	-	-	-	-
	女子	1.2	3.0	37.1	58.7

4. 性をどうみているか

次に高校生の性意識、性体験観をみていこう。

表2-8は、今みてきた「つきあい意欲」の背景にあるデータとも言えるもので、まだ受験や進路に圧迫されていない「高1、高2の子に相手ができる」と、成績がどうなるか」を尋ねている。「相手ができる」と成績が下がる」とする子は、「とても・少し」を合わせて3割しかいない。「むしろよく勉強するようになる」と思う子は1割しかいないが、大方は「ほとんど変わらない」で、約6割がそう言っている。なお、成績や高校ランクとの

関連はみられなかった。

また表2-9の、大学受験を控えた時期につきあいをどうしたらいいかについても、「受験まで、完全につきあいをやめた方がいい」は、男子6.8%、女子3.8%と僅少で、放課後までつきあうことは制限しても、「電話や登下校を一緒にする」などの行為まで制限する必要はないと判断している。昔のように恋愛やつきあいが何か特別のことという受け止め方はなくなって、日常性に組み入れられたできごととなったのであろう。

表2-8 高校1、2年の子につきあっている相手ができると成績は下がるか

	(%)	
	男子	女子
1. とてもそう思う	5.5	3.6
2. 少しそう思う	25.3	26.2
3. ほとんど変わらないと思う	56.8	60.4
4. むしろよく勉強するようになる	12.4	9.8

表2-9 相手のいる3年生のつきあいをどうすればいいか

	(%)	
	男子	女子
1. できれば、受験まで、完全につきあいをやめた方がいい	6.8	3.8
2. 電話くらいか、登下校を一緒にするくらいにしておいた方がいい	57.4	71.6
3. 放課後もつきあって、あと勉強すればいい	35.8	24.6

また成績との関連では、「放課後もつきあって、あと勉強すればいい」とする生徒は、表2-10に示したように、成績下位者に多い傾向がみられる。また結果は省略したが、「放課後もつきあって、あと勉強すればいい」は、男子では高校ランクに差がなかったが、女子は上位校に少ない傾向がみられた。

次の表2-11は冒頭に掲げたデータだが、「愛し合っているけど、結婚を前提としないSEXは絶対避けるべきである」を肯定する者はわずかで、男子22.7%、女子23.3%しかない。しかも6年前の調査と比べ、半減に近い減少率である。高校段階での性体験の許容性は、6年間でまた大幅に上昇したことが

表2-10 3年生になったときのつきあい方 × 成績

(1) 男子 (％)

	上	中の上	中	中の下	下
1. つきあいをやめる	14.1	5.1	7.7	4.9	6.2
2. ほどほどに	57.7	62.6	60.7	57.9	47.9
3. 放課後もつきあってよい	28.2 <	32.3	31.6 <	37.2 <	45.9

(2) 女子 (％)

	上	中の上	中	中の下	下
1. つきあいをやめる	1.3	3.8	3.9	3.5	4.8
2. ほどほどに	84.9	72.9	73.8	71.2	58.9
3. 放課後もつきあってよい	13.8 <	23.3	22.3 <	25.3 <	36.3

表2-11 性体験について

	男子	女子
1. 愛し合っているけど高校生は、結婚を前提としないSEXは絶対に避けるべきである	22.7 (38.1)	23.3 (42.5)
2. 避妊さえ完全にしておけば、高校生どうしSEXをしても別に構わない	77.3 (61.9)	76.7 (57.5)

() 内の数値は1988年調査

わかる。

こうした性体験への許容性は、どんな要因に影響されるかをみている。表2-12は高校ランクとの関連をみているが、男子はランクとの関連がみられないが、女子は、下位校にSEXに対する大きな許容性がみられる。

表2-13はアルバイトとの関連をみたもの

だが、男子女子ともに、SEXを許容する群ではアルバイトをしている率が高い。男子では「SEXは避けるべき」としている生徒のアルバイト率は5.7%でしかないが、「避妊さえしていればかまわない」とする生徒は、19.9%もアルバイトをしている。

表2-12 性体験の許容性 × 高校ランク

(%)

	男子	女子
上位校	74.1	66.8
中位校	79.6	66.8
下位校	75.9	85.2

「避妊さえ完全ならば、SEXしてもかまわない」割合

表2-13 性体験への許容性 × アルバイトの体験

(%)

男子		女子	
SEXは絶対避けるべき	避妊さえ完全ならいい	SEXは絶対避けるべき	避妊さえ完全ならいい
5.7	< 19.9	11.5	< 24.9

「アルバイトしている」割合

また表2-14の自己像との関連では、高校生のSEXに否定的な群には「よく勉強している、読書好きな」生徒が多少多いが、他の項目では全て性を許容する群の方に、「スポーツが得意、音楽が好き、おしゃれのセンスがある、ルックスがいい、異性にモテる」

など、若者らしい特性の持ち主が多くなっている。

では相手の有無によってはどうか。表2-15に示したように、相手のいない生徒と、相手のいる(いた)生徒とでは、SEXに対する許容性が違いをみせる。相手のいない生徒

表2-14 性体験への許容性 × 自己像

	男子		女子	
	SEXは絶対避けるべき	避妊さえ完全ならいい	SEXは絶対避けるべき	避妊さえ完全ならいい
1. スポーツが得意	42.3	< 45.3	46.4	> 40.9
2. 音楽が好き	79.9	< 83.9	83.5	< 91.9
3. おしゃれのセンスがある	13.4	< 24.2	19.9	< 31.1
4. ルックスがいい	10.3	< 17.7	6.4	< 12.0
5. いつも面白いことを言って、みんなに受ける	23.2	< 29.9	31.9	< 40.8
6. クラスで友だちが多い	51.6	< 52.8	56.2	< 58.1
7. 異性にモテる	6.2	< 11.9	6.9	< 8.1
8. 学校以外に遊びや趣味の友だちがたくさんいる	50.5	< 58.6	48.3	< 53.5
9. よく勉強している	21.2	> 13.1	14.5	> 10.6
10. 読書が好き	47.7	> 42.6	63.0	> 55.4

(%)

自分を「とても+わりとそう思う」とする者の割合

表2-15 避妊さえ完全ならばSEXしてもかまわない × 相手の有無

(%)

	つきあっている	以前つきあっていた	つきあっていない
男子	83.7	88.2	73.1
女子	87.6	82.2	71.3

の方が、許容性が小さい。また表2-16に示したように、性体験をすでにした生徒としていない生徒とでは、SEXの許容性に大きな開きがある。また未体験者でも、その予期のレベルによって、大きな差がみられる。男子を例とすれば、体験者は97.9%だが、「高校

時代、自分は絶対に性体験をしないだろう」とする生徒は、54.5%と半数に近い。女子もほぼ同様である。

また成績との関連を表2-17でみると、男子も女子も成績下位者に、許容性がやや大きいことが見いだされる。

表2-16 避妊さえ完全ならばSEXしてもかまわない × 性体験とその予測

		(%)			
		すでにした	たぶんするだろう	たぶんしないだろう	絶対しないだろう
男子		97.9	94.0	80.7	54.5
女子		97.5	95.0	85.7	54.2

表2-17 避妊さえ完全ならばSEXしてもかまわない × 成績

		(%)				
		上	中の上	中	中の下	下
男子		74.0	71.0	74.7	76.6	88.2
女子		76.5	73.6	77.5	73.8	83.0

次に表2-18は、アダルトビデオを例として、性的欲求についての肯定度をみようとしたものである。「アダルトビデオを、男子の友人とときどき見る男子高校生」については「非行がかった」とする見方は5%を割り、「しかたがない」「自然なこと」がほぼ半々である。わずかに男子は「自然なこと」、女子

は「しかたがない」とするものの、差は僅少である。

また女子高校生がアダルトビデオを見ることについても、「ごく自然なこと」はさすがに男子の場合より大きく減るが、「女子でも見たいのは同じでしかたがない」とする生徒が、男子68.4%、女子74.8%と、許容率は極

表2-18 アダルトビデオとの接触

(1) アダルトビデオを（男の子の友人と）ときどき見る男子高校生 (％)

	男子	女子
1. 意志が弱い、非行がかった生徒だと思う	3.8	2.5
2. 男子が見たいのは、しかたがないことだと思う	41.8	49.8
3. ごく自然な（ふつうの）ことだと思う	54.4	47.7

(2) アダルトビデオを（女の子の友人と）ときどき見る女子高校生 (％)

	男子	女子
1. 意志が弱い、非行がかった生徒だと思う	8.3	7.3
2. 女子でも見たいのは同じで、しかたがないと思う	68.4	74.8
3. ごく自然な（ふつうの）ことだと思う	23.3	17.9

めて高いのが特徴である。

なお高校ランクとの関連は、表2-19に示した。アダルトビデオを見る高校生について「ごく自然なこと」とみる生徒は、男子も女子も、上位校に少ない。

以上のように、生徒は、性的欲求を自然な

ものとみなしており、異性とのつきあいのレディネスも十分である。しかし相手としては、おとなの成熟性を備えた存在ではなく、比較的友人感覚でつきあえるふつうの相手を望んでおり、全体としては成熟している異性に対して、やや退嬰的とも言えそうである。

表2-19 アダルトビデオとの接触 × 高校ランク

(1) アダルトビデオを（男の子の友人と）ときどき見る男子高校生 (%)

		意志が弱い、非行がかっている	男子が見たいのはしかたがない	ごく自然なこと（ふつう）
男子	上位校	3.0	50.9	46.1
	中位校	3.7	37.8	58.5
	下位校	5.0	40.2	54.8
女子	上位校	5.2	56.0	38.8
	中位校	1.4	48.1	50.5
	下位校	2.3	47.7	50.0

(2) アダルトビデオを（女の子の友人と）ときどき見る女子高校生 (%)

		意志が弱い、非行がかっている	女子でも見たいのはしかたがない	ごく自然なこと（ふつう）
男子	上位校	11.4	69.7	18.9
	中位校	5.2	68.6	26.2
	下位校	11.6	66.7	21.7
女子	上位校	13.5	72.1	14.4
	中位校	4.9	77.7	17.4
	下位校	6.4	72.2	21.4